大正九年九月一日發行　大正九年八月二十六日印刷納本　（每月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

十七巻　九月號

目次

婦人之友社の三大雜誌

「婦人之友」

每月一回一日發行

一册金四十錢　郵稅一錢五厘

主幹　羽仁もと子

「まなびの友」

每月一回一日發行

一册金廿五錢　郵稅一錢

主幹　羽仁もと子

「子供之友」

每月一回一日發行

一册金廿五錢　郵稅五厘

主幹　羽仁もと子

東京雜司ヶ谷　婦人之友社　電話番町三六九八　振替東京一一六〇〇

七卷 九號

女子青年界目次

大正九年九月號

貴婦人紳士御愛用美髪料

ドクターペリース

ヘーアトニック

一瓶 壹圓

Dr. Perry's Hair Tonic

起床時ノ洒ハふけヲ去リ抜毛ヲ止メ不快ナルかゆみヲ治ス

東都唯一外人經營化粧料藥品店

コロンビヤ蓄音機レコード東京代理店

東京市京橋區銀座尾張町

ホスピタル、ファマシー

銀座藥品部

電話銀座一五三五番

The Hospital Pharmacy

婦人傳道者養成

九月二十一日新學年開始に際し生徒の追募集を爲す滿十八歳以上高女卒業以上の學力を有し幾分聖書の素養ある傳道志願者は入學願書に牧師の薦書及醫師の證明書を添へ同月十五日限り校長宛に申出づべし。同十七日試驗の上相當級に編入す委細は學校宛照會あるべく入學願書用紙等は三錢郵券封入にて申込あれ。

横濱山手

二〇九番

共立女子神學校

NAKAYAMA SHOTEN.

IVORY CARVER.

Manufacture of

Damascen Ware, Bamboo Sticks Wooden Works & Japanese Curios.

No. 27, Bentendori Nichome, Yokohama.

TEL. NO. (HONKYOKU) 597

横濱市辨天通二丁目

二十七番地

美術品並ニ雜貨直輸出卸小賣商

中山商店

電話本局五百九十七番

女子青年界

第十七巻

第九號

われは汝の神ヱホバなり。
われ汝に益することを敎へ
なんぢを導きて共行くべき道にゆかしむ。
願はくはなんぢ我が命令にきゝ従はんこ
とを。
もし然らばなんぢの平安は河の如く
なんぢの義はうみの波の如くならん。

以賽亞書四十八章

會說

與へられし生命

"Our wills are ours, to make them Thine"

修養會に出席された姉妹方からの御手紙の中に、「神の御命令が下る迄懸命に準備しませう」「唯人を愛し得る力を」「神の爲に盡し神を喜ばせる事を」等といふ言葉を多く聞き得た事は、眞に感謝すべきことであります。

「汝等互の勞を負へ、斯くして基督の律法を全うすべし」とのポーロの言が、僅に出席者の心の中に力強く響いたのでありませう。

斯の修養會々期中の或日、數十名の若き姉妹達が今後たとへ形式は一樣でなくとも、各自置かれた立場々々で必奉仕の生活をなそうとの決心を、靜かに起立して表明された事があります。其時の光景は見る者に深い感激と鼓舞とを與へ、雄々しい賴母しいといふ感をさへ起させずには置きませんでした。

起立された一人々々の後姿は、今迄の利己的な[illegible]すなかりし生活を悔ゆる傷ましさと、新しく醒めた神と人との爲に生んとの力强さとを語るものであつたやうに思はれました。

「修養會後、汝等互の勞を負へといふ語は、斷えず私の胸を打つて居ります。家庭の些事に、學校の事に、寄宿舍のつとめに私はいつも此言葉を思ひ出します。恐らく之は今後私の全生活を導く主調となるでございませう。それは利己的な自愛的な考から私を助け、不平がましい感情から私を救ひます。此語が斯く迄生きて私の內に、又私の實生活に働くとは、實に自分ながら不思議にさへ思はれます。」との感想をもらされた姉妹もあります。

「互の勞を負ふ」生活、之は正しく基督の歩み給ひ

ました其儘の道であり、神が私共一人々々に踏ましめやうと求めて居らるゝ生活に相違ありません。世

生れつきの儘の自我が全く亡ぼされ、神の力によつて新に生れ更る眞理をも說明する言であると思ひ

めやうと求めて居らるゝ生活に相違ありません。世にある多くの幸福の中、私共が其若き日に造主を認め、彼の聖旨の儘に生きる事が最高の人生であることをさとり得るに優る幸はありません。之は實に最大發見でありまして、之によつて初めて私共の生命が眞に其與へられた目的にかなふ歩みを爲すことが出來るのであると思ひます。

生れながら所有して居る人間の低い性情に支配され、其所から出て來る慾望のまに〳〵生きて行く數十年の生涯は、至高至聖の神の意志に支配せられて聖旨のまゝに過す數年、若くは數月の生活に及ぶべくもありません。私共が全く神の中に沒入して、自らを亡きものとする時自分にさへ思ひ及ばなかつた聖い高い力の湧き出づる事を經驗するのであります之は基督の仰せられた一粒の麥の言葉をあてはめて考へる事も出來ませう。麥が地に落ちて全く死ぬ事により、新しい生命が萠え出て來るのです。これは

て新に生れ更る眞理をも說明する言であると思ひます。（ヨハネ傳十二〇二四）

とにかく、神は私共各自に聖い使命を與へ、それを遂行せしめて御自身の聖業の分擔者たらしめやら
として居られます。私共の此世に生れ出でたのは、
自分からでなく、神の思召によつたのであり、其
くるは神の聖旨を行はん爲に外なりません。

聖旨といふことは、云ひふるされ、聞きあき
る言葉で、それはむしろ平凡な何でもない事の
な感をさへ與へます。或基督者達にとつては、之は
てんで考へられない問題であるかもしれません。讃
美歌の中でも二百三十三番は最もよく歌はれる歌で
ありますが、其割に歌ふ人の心には歌の眞意が徹し
て居ないのではありますまいか。

主よ御手もてひかせ給へ、　唯わが主の道を歩まん
いかに暗くけわしくとも、　聖旨ならば我いとはじ。

力たのみちゑにまかせ、　我と道を選びとらじ
ゆくては唯主のまにまに、　ゆだね奉り正しく行ん
主よのむべき我さかづき、　選びとりて授け給へ
喜をもかなしみをも、　充し給ふ儘にぞ受ん。

之は眞心から絶對の服從を神に誓ふもの丶歌であり祈りであります。私共は他の多くの聖訓、例へば愛謙遜、忍耐、犠牲といふやうな貴い御教へと同様に神の聖旨に服從するといふ此事をも、斷えず新しい決心と感激とを以て考へなければなりません。

一體聖旨に服する生活とはどんな生涯でありませうか。一言で云へば、基督の營まれた生活です。それは最も自由な生活です。絶對の服從は絶對の自由をもたらします。之れは矛盾のやうですが事實であり、聖徒達や信仰の篤い基督者の經驗です。若し私共が神の意志といふ大磐石にしつかり縋りついて居ないならば、四方八方から私共を捕へやうと待ち構へて居る社會のいろ〳〵の誘惑、世の毀譽褒貶、自己の低いそして執拗な感情、其他種々雑多の捕はれから、寸時も自由である事は到底出來ないのであります。人は生れながら自由を欲します。然し眞の自由は確固たる一つの據り所なくして得られるものではありません。之は世の多くの人々が自ら自由で[illegible]ると思惟ひながら其實捕はれた生活をして居る事を見てもわかります。或人は富に、他の者は名譽に、又は己れの感情に、對世間的の考へに。そして正直に自分自身を生かして行く事が出來ずに居ります。

イエス基督我等をときて自由を得させたり。是の故に汝等堅く立ちて復び奴隷の軛に繫るゝ事勿れ。大海の中に何の束縛もなく自由自在に泳ぎまはる[illegible]いふ事は、樂なやうで實は苦しい事であります。私共が神の意志の現である基督といふ舟に乘る事に[illegible]り、しつかりした土臺の上に眞に自由な活動をなす事が出來るのです。然し船長の命令には絶對に從はねばなりません。此服從が自由に至る道なのです[illegible]ら。私共は唯主の命令に信服して忠實に歩めばそれでよいのです。然し其信仰と服從とは 必 絶對的の

ものでなければなりません。自分を苦しめ人を躓かせる事とて、生半可の信仰生活の如きはありません。信と服とは信仰生活の土臺です。

次に私共は、人の計る所の如何に果敢なくして、神の計り給ふ事の如何に永遠的なるかを考へねばなりません。

人の心には多くの計畫あり、されど唯エホバの旨のみ立つべし。（箴言十九ノ二一）

人間の目に如何に華々しく見える大事業、大活動であつても、神の側からそれを見られます時、案外空虚な一時的なものであるかもしれません。之に反して如何に微小な、貧弱に見える業でも、神は其中に生命の種子を與へ給ふ事がありませう。要は私共の企が神の聖旨によつて居るか、自己の考より出でしかにあるのであります。

最後まで殘るもの、そして人の中に生きた働を爲すものは、祈禱より生れ聖旨によつてなされた事でありまして。斯る業の祝福をうけて榮に至ることは當然と申してよいでありませう。

然らば私共は如何にして聖旨をさとることが出來ませうか、之は是非考へなければならぬ問題です。勿論神はいろ／＼の方法を用ひて聖旨を示し給ふでありませう。或は聖書の言葉を通し、人の口により、良心の聲を以て。然し記憶しなければならぬ一事は、常に熱心な敬虔な心の態度を持して事々に聖旨如何にと待望む事であります。しづかに神の前に跪いて祈る時、聖旨は最も鮮に示されます。祈禱は唯自分の願事を訴へる爲のみではありません。眞の祈禱は、同時に神の語り給ふ御聲をも聽く爲であります。

わが神エホバの語り給ふ事をきかん。（詩八五ノ八）

と詩篇記者の歌つた態度が必要なのであります。

僕きく、主よ語りたまへ。（サムエル前一ノ一〇）

とのサムエルの敬虔を要します。

モット博士は米國大學生青年會の一機關雜誌に左の如く云はれて居ります。

「現代人にとつて最も必要なことは、人と世とから全くはなれ、己れの魂の眞情をさぐり、靈力の新なる供給をうけん爲、神とのみ過す時を作り出す事である」と。而して之は今日の米國人にとつて最も緊要な問題であると附け加へて居られますが、私共にとつても亦同樣に必要な事ではないでありませうか。

盡くることなき愛と、倦むことなき奉仕の生活、日常の些事にも聖旨の實行者たること、之は深き祈なくして爲し得る業ではありません。互の勞を負ふ力の秘決も亦此同じ源にあるのであります。

眞に神の聖旨に從つて、生き甲斐ある生涯を送
うと望むもの、神と人とのために自己を捧げた聖
奉仕の生活を營まうと願ふものは、先づ深い深い祈
禱の經驗に入ることが其第一歩であり、終始この祈
勢力を失はぬやう努力することが、目的を遂行する
秘決であると確信いたすのであります。

「我等神の御前に召さるゝ時、神は如何に多く働
しかを問ひ給はぬ。神の求め給ふは如何によく祈
しかといふ事である」と或聖徒は申て居ます。何
でありませうか。深い祈禱の生活は當然眞の活動を
伴はない事はないからであります。

"O my God, I come now, afresh to take up this my calling in childlike, joyous trust and love. Lord I would live wholly, and only to do Thy will. I would abide in the Word and wait upon the Spirit, I would, like Thy son, live in fellowship with Thee in prayer, in the firm confidence that Thou wilt day by day make me to know Thy will more clearly. O my Father, let this my desire be acceptable in Thy sight. Keep it in the thoughts of my heart for ever. Give me grace with true joy continually to say: Not my will, but the will of my Father must be done: I am here on the earth only to do the will of my God. Amen"

Andrew Murray.

ピリピ書講解（四）

佐波亘

□生死は人生に於ける一大事實です。こゝにパウロは生死の問題に觸れて述て居ます。吾人は何事を差置てもこの問題に就て深く考ふる所がなくてはなりません。生死に關して何等の意義をも發見せず、確乎たる信念を維持することなしに、如何に盛んなる活動をしても、これはすべて空しいものです。

□勿論、吾人は生死の問題に對して、自分で築き上げた一種の哲學をもつて居ります。然しながらそれは雨ふり流漲り、風ふきて其の家をうてど倒れぬほどに、堅固なる一大磐石の上に建てられたものでせうか。一考を要します。

□パウロは曰く「我にとりて、生くるはキリストなり、死ぬるもまた益なり」（一ノ二一）。これ實に彼の死生觀に外なりません。他人はともあれ、自己にとつて生るはキリストであると言ふのです。言ひ換れば人生の目的も活動の動力も一にキリストにありと言ふのです。それは金でも力でも名譽でも事業でも、抑亦快樂でも氣分でもないのです。キリストは「われは道なり、眞理なり、生命なり」（ヨハネ傳十四ノ六）と仰せられましたが、即ちパウロに取てはこの言どほりに彼の生命の本源がキリストにあつたのです。勿論、彼がキリストと密接交渉な生活を續けて居つた時と雖その活動は實に目ざましいものでありました。然しながらそこには少しも永遠の生命、眞の生命は潜んで居ませんでした。

□キリストは實に吾人の生命の本源です。或は生命の本質だとも言へませう。眞我と言ひませうか本我と言ひませうか。とにかく眞正の我、言ひ換れば我の正體はキリストにあるのです。現在の我は不完全な、不自由な、然も理想と相距る甚だ遠き姿であるけれども、さて吾人は我の眞の姿をいづこに尋ね出づべきでありませうか。基督教ではこれ即ちキリストに外ならぬといふのです。

□パウロは自己の經驗を語つて「最早われ生くるにあらず、キリスト我が内に在りて生くるなり」（ガラテヤ書二ノ二〇）と言つて居ます。彼はキリストと神秘的に一致結合して以來（コロサイ書二ノ二）、こゝにあるやうに我見我執を全く棄てました。眞に無我でした。絶對服從でした。心からキリストの奴隷たるを甘んじました。この邊の消息はかのマルチン・ルーテルの經驗でも理解せます。彼が言ふに諸君が私の回心前に私の心の戸を叩いて、こゝに誰が住んで居るかと問ねたら、私は答へたでせう。こゝにはマルチン・ルーテル以外何人も住んで居りませんと。それから諸君が内に入ると、そこに諸君は一人の氣まぐれな修道僧を見出したでせう（中略）。然しながら今晩諸君が私の心の戸を叩けば、私は答ませう。マルチン・ルーテルは最早こゝに住んで居ません。こゝには獨りイエス・キリストが住んで在るばかりですと。即ち彼らの經驗ではキリストを離れては、或は存在といふことはあらう。或は動いて居るといふことは言へやうが、然しキリストが活きて居られると同じやうに言ひ換ればキリストにある生命のやうなものはそこに微塵もないのです。空の空、空の空なる哉都て空なり、（傳道之書一ノ二）と觀じたのです。

□パウロは自我をキリストに交付したのです。然ながらそれはたゞ單に屈從したのでも、盲從したのでもありません。それまでにはそこに幾多の戰鬪があつたのです。曲折があつたのです。そして彼は勝利の歡喜を經驗しながら遂にキリストに降服したのです。從てキリストを生活の根柢とし、またその目標

とする生活は實にこれ勝利の生活と言つてもよいのです。

□然らば死に就ては如何。パウロは曰く『死ぬるもまた益なり』(ピリピ書二ノ二十一)。こゝに益とあるは利得と言つたやうな意味があります。キリストに接觸したパウロは既に生の價値に一大變動を來し、キリストのやうな生命の潜む生活は、全世界を以てしてもこれと交換し難いものであると觀じたのです(マタイ傳十六ノ廿六)。然も亦キリストにある死はこの生の價値に加ふるにさらに利得を以てしたやうなものであると言つたのです。即ち彼に取りて死の價値は宛然元利合計のやうなものであつたのです。言ひ換れば彼が生存中に得ること能はざりしものを、死後に得ることが出來ると言つたやうに、吾人は死によつてキリストの全部を獲得することが出來ると觀たので、彼に取りて死は拒絶すべきでなく寧ろ歡迎すべきものであつたのです。無論、それはキリストにありて死ぬ塲合です(讃美歌三六三參考)(ヘブル書二ノ十五參照)。然しながらキリストによりて生に無限の價値を發見したパウロは　勿論世をはかなむで出家遁世するやうなことをしませんでした。即ち彼の書簡を讀むと彼が如何に生に執着して居たかがよく分明ます。吾人はキリストにありて生の價値を發見するまでは、生に執着して居たやうで、實はそれ程に執着して居らなんだことを悟るものです。(自殺者の多きにこれを見よ)況や死の價値をやです。

□かくの如くパウロの願望は『全き顯悟の凡ての富を得て、神の奥義なるキリストを知らん爲』(コロサイ書二ノ二)には、死も亦歡喜でありました。否、彼は生によりて知り得ぬことを死によりて知り得るのであらうと夢想たのです。言ひ換れば吾人の信仰生活の妙味は死後に至つていよ〱ます〱その佳境に入るのであると確信したのです。

□そこでパウロには一つの煩悶がありました。眞に尊い煩悶です。吾人にはかゝる煩悶があるでせうか。信仰の篤い人々には常に必ずかゝる煩悶があるものです。曰く『されど若し肉體にて生くる事、も

が勤勞の果となるならば、孰を選ぶべきか、我これを知らず。我はこの二つの間に介まれたり。わが願は世を去りてキリストと偕に居らんことなり。これ遙に勝るなり。されど我なほ肉體に留るは汝らの爲に必要なり。我これを確信する故に、なほ存へて、汝らの信仰の進歩と喜悅とのために汝等すべての者と偕に留らんことを知る」(一ノ二二—二五)

□基督教では結婚式の時、「願くは、今日より此二人が此世に宿れる間共に神の子供として最も幸福なる世渡りをなさしめ、又最も有益なる生涯を送らしめ玉へ」(日本基督教會諸式參照)といふやうな意味の祈禱をさゝげます。即ち吾人の生活がたゞに幸福であるばかりでなく有益であるやうにといふのです。言ふまでもなく吾人の生活が有益であればあるほど、その人の生の價値は增加するものです。イエスの譬に葡萄園の主人が園丁に「視よ、われ三年きたりて此の無花果の樹に果を求むれども得ず。これを伐り倒せ、何ぞ徒らに地を塞ぐか」と言つて居る條があります。

(ルカ傳十三ノ七)。植物にしても徒らに地を塞ぐのは自己に取つて無意味であるばかりでなく、それがその周圍のものゝ生のために必要なる滋養分をも吸收するので、從つて他の生長發達を妨げ、これをして遂に果を結ぶこと能はざらしむるものです。世に無益な生活ほど無意味で且つ有害なものはありません。そこでパウロは「わが勤勞の果となるならば……汝らの爲に必要なり……我これを確信する故に、なほ存へて……留らん……」と言つて居るのです。

□パウロはキリストの爲めにすべてを忍びました。キリストの爲にはおのが願望をも封じてしまひました。イエスが「わが父よ、もし得べくば此の酒杯を我より過ぎ去らせ給へ。されど我が意の儘にとにあらず、御意のまゝに爲し給へ」(マタイ傳二六ノ三九)と祈れた心も即ちこれです。神は吾人よりも大なるものです。それ故神は小い自己の願望よりも必ずより善きものを與へ、より善き結果を生ずるやうにして下さるに違ひないとの確信を以て、この場合心靜か

□さりながら弱きは人の心です。そこでパウロは『孰れを選ぶべきか……我はこの二つの間に介まれたり……』と言つて居るのです。然ながらそこにはかゝる場合にいつも彼を強き者とならしめた一つの潜勢力がありました。それはキリストの『愛われらに迫れり』(コリント後書五ノ十四)とあるそのキリストの愛に外なりません。愛は不思議な力をもつて居ます。愛の力ほど神秘なものはありません。然もその愛はパウロに取りては自己がために十字架の死をさへ遂げて下すつたキリストの獨一無二の愛の力なのです。

□何事でも自己の思ひ通りになつたとしたらどうでせうか。吾人には果して悔ゐがないでせうか。そこには訂正や取消や削除をするやうな必要は起らないでせうか。畢竟するに人生はこの愚かな小さい自己の思ひ通りにならないので幸福なのです。そこでパウロはこの五年間に亘れる囚人生活を感謝しなが

□パウロの歓喜はいつも自己の問題ではありませんでした。彼に取りては他人の『信仰の進步』(一ノ二五)を見るのが何より愉快なのでした(二ノ十二参考)。吾人の信仰生活に於ける歓喜もどうかかくありたいものです。信仰生活をなしつゝ依然として世俗的の歓喜を追求するやうでは、まことになさけない次第ではありませんか。自己が傳道した人々の『信仰の進步と喜悦』を見るのは、傳道者に取りて實にこの上なき報酬でなくてはなりません。

□『汝等たゞキリストの福音に相應しく日を過せ』(一ノ二七)。これが吾人の信仰生活の規矩準繩です。『汝等はもはや、旅人また寄寓人にあらず、聖徒と同じく國人また神の家族なり』(エペソ書二ノ十九)とあるやうに、吾人は神の國の一市民として神の國の公共の利益のためには一身を顧るの遑なく、獻身、犧牲をも厭はぬやうな精神を持することが大切です。

□『汝らが靈を一つにして堅く立ち、心を一つにし

て福音の信仰のために共に戰ひ……」(一ノ二七)。パウロは好んで戰術上の語や、遊戲の語を使用します(エペソ書六ノ十三)(ピリピ書三ノ十四)(コリント前書四ノ九)(テモテ書二ノ五)。こゝにあらはれた言づかひも亦その一例です。かく考へればその意味も自ら明瞭になりませう。孤軍奮鬪でなく一致協力です。これは今日の我が國の救について、言ひ換れば教會生活について或はまた傳道について吾人の一考を要する點ではありますまいか。

□「汝らはキリストのために啻に彼を信ずる事のみならず、また彼のために苦しむ事をも賜りたればなり」(一ノ二九)。こゝには苦しむ事が神の賜だとあります。イザヤ書四十八ノ十には「視よわれなんぢを煉たり。されど白銀のごとくせずして患難の爐をもてこゝろみたり」とあります。またその五十三ノ三にはエホバの僕について「悲哀の人にして病患をしれり」とあり、ヘブル書二ノ十には「これおほくの子を榮に導かんとて其を救ふ君をして苦難を以て成しむるは萬物の歸するところ萬物を造れる者に應ることなり」とあります。その他テサロニケ後書一ノ五、ロマ書八ノ十七、テモ後書二ノ十二、コロサイ書一ノ二十四、コリント後書十二ノ七もこの意味を解釋するために參考になります。それはとにかくピリピの人々はパウロが苦痛の中に歡喜を感じて居る狀態を目擊したのです。論より證據、彼らはこゝにパウロが書きしるしたやうなことを經驗したのです。それ故この一節はそのやうな背景を心に描いて讀めば、實に然あらんと首肯せしめられます(ヘブル書十二ノ四十三參考)あらゆる德の中で同情は貴いものですが、ことに共同生活に於てそれは衆德の帶であるともいへませう。然るにその同情は人生に於ける苦痛の學校に於て最もよく敎養されるものです。彼此考へて見れば、吾人が苦痛をうくることは確に神の賜であることが理解ます。

(ことし五月―八月數回に亘って、福音新報に人生に於ける苦痛と題し私はヨブ記の小研究を掲載しました。或は御參考になるかも知れません。)

到達の日（譯詩）

主を待つこの到達の月は冷たく澄みて輝けり、
げにも到達の夜半は長し、
我等の燈火は歲また歲、小止みなく燃えたれど
その焔は猶强し、
「夜を守る人よ、今宵は如何に」と待ち倦ぐみて
我等は叫ぶ、
されど守り人の聲ぞする、「空には何の異狀も
見えず」と。

門衞は門邊によりて眺め、僕は中にありて窺ふ
醒めて待つ間は長く遲く、又我手に譽はおそし
「夜を守る人よ、今宵は如何に」と言へども
答は一つ、
「曙の光は小山の頂に上らず、燈火の焔は靑みは
せず」と。

この時忍耐深き賢き少女等の囁きが聞ゆ、
「君は必ずや遠くには在すまじ、
一と夜目醒めゐて迎へ奉らむ、呪はしき晝は過
去を顧みつゝあり、
この後來ん日は陰鬱なるべし、されど我等は君
が御誓ひを遲滯しとは怨まじ、
只眼醒めて君を待ち奉らめ」

魂は魂に相互に火より火を燃やす、
「友よ、決勝の點に觸れたる我等を見よや」と
彼等は「上り來よ」と我等を勵ませり。
我等は彼等と共に疲れし足を休め、キリストと
緒なる家を建てん。
彼等は甘美し、されど主は最も甘美き哉、蜜蜂
の巢にもまさりて甘美き哉。

其所に離別なく哀愁なし、
遠きは近くに相逢ひ、失はれし者はこゝに再び
發見さる、
別れ長き者の愛着は愈々深し、
其所なる安息は眼未だ見ず、耳未だ聞かず、心
亦思惟せし事非ず。
我等のよきもの凡ては、エスキリストなる最善
者の御手の中に長く委し奉ればなり。

我等は夜半長しとて咽び、
我等は曙の光の射すを待ちつゝ笑み、調べ緩か
に滿悦の歌を奏でゝ樂園の戸を叩く、
咽びつゝ我等は、一度び我ために咽び給ひし君
に縋る——我等はかたく君に縋りつゝ、
いやさきに、いやはてに、祝福を給ふ迄は君を
離し奉らじ。

咽びつゝ今宵も我等は君に縋りなん、
曙が我等の眼を撲ち、眞夏の光が白雪を解かす、
その時まで、
我等は君を離すまじ。
その時無花果は花咲き、小鳩は翼交しつ日永を
鳴き暮さん。
その時君は宣り給ふべし、
「愛する者よ、美しき者よ、起ちて我に來れ」と。

クリスティナ・ロゼティ
村岸榮子譯

聖書註解は何がよいかとの質問をうけますから、一寸申上て置き
ませう。Macmillan 會社で出版の Dummelow の The One
Volume Bible Commentary か、先頃 T. C. & E. C. Jack 會社
で出版の Peake's Commentary on the Bible がよいでせう。
前者は趣味深く後者は研究的です。一は全體の要領を得るによく
他は手取り早く要點を握るに便です。どちらかといへばダメロ
オの方は既に十餘年前の發行ですから、ピークの方に新しい解釋
を多く見出します。ことにピークの百頁近くある索引はコンコー
ダンスの代用をするので甚だ重寶です。
代價は六圓内外、教文館、基督教書類會社にあります佐波。()

太陽の讃歌

（聖フランシスと聖クララの六）

小出正吾

贖罪の歌

小出正吾

愛する姉妹！

人の一生を考へるのに二つの仕方があると言はれて居ります。——一つは彼が生涯を通じて如何なることを行つたか？と云ふ見方で、もう一つは地上に於ける彼が如何なるものであつたか？と云ふ見方であります。

聖なる處女クララが地上の形象に現はした様々の行ひの其の力強さと美しさを以て彼女の生涯を見る時に、私達の眼はもつともつと深いもつともつと貴い彼女の心の世界にまで導いて行かれるのであります。其の世界が彼女の心の殿堂です。其處に溢れるものが彼女の本質であります。丁度薔薇の花から清い薫香が自づからたゆたふ様に、又小鳥が無心に歌ふ様にクララ自らの本質が彼女の祈りが彼女の憧憬が彼女の内なるものゝ一切が香ほり出で歌ひ出でたのがクララの地上の生活であります。

其處には虚飾がありません。彼女の本質と彼女の表現は同じ色同じ音であります。若し違ふところがあるとすれば其は質の問題ではなくて量の問題であります。即ちクララが地上生活に表現したものが彼女の内に貯へられた全べてゞあつたかどうかと言ふことであります。白く塗られた墓場の様に自分の本質生活は黒いのに其の口其の手の表現生活は白色である人の場合と違つて、クララにおつては人生を二つの見方は彼女の事業又外的生活ばかりを見て彼女

を讃美する勿れ、更に深く更に親しく彼女の内なる殿堂に導かれ行き其處に彼女の光輝の源、彼女の美と潤ひのもとなる信と愛とのハートを見よと教へて居るのではありませんでせうか？

かう考へて見ますと私は半年にも亘つて茲に長たらしく記して參りなした聖きフランシス及クララの記憶に於て、どんなに大切なものゝ數々を取り落とし、而も不要なる雜想の多くを並べ過ぎたかに就いて悲しく思はます。この亂れた素描が本當の聖者の心の殿堂を汚してはゐないかと怖ろしく思ひますがあなたは必つと眞實のものを拾ひ別けて下さることゝ信じて續けます。

扨てフランシスがクララの心の内に見出した純潔な WOOMANHOOD とクララがフランシスの前に捧げた神的憧憬とは、ファザア・キャスペルトの申して居ります樣に、實にこの世の實生活には稀にしか見られないところの、最とも純なる騎士道的ローマンスに屬する心の交りをつくつたのであります。クララの心は聖フランシスをして屢々危機に救ひを得せしめました。フランシスが或秋の未明のこと十字架を思ふの餘りに森の中で祈りの最中　自分の兩の掌と兩の足の甲に主の御受難の不思議な痕を烙きつけられたと云ふ有名な聖　痕のことについても、彼は兄弟達には默つて居たにも拘はらずクララには物語つた。又兄弟達の誰も知らなかつたポルチウンクウラの秘められた物語がクララには語られてあつた又聖痕の奇蹟により手と足の傷口のためにクララが作つた若干の繃帶と柔い一足の履は今も猶聖クララ寺に遺されてゐる。――初代の傳記者が二聖者の個人的親交の上へ秘かに面紗をかけたのにも拘はらず、自由な彼等の交りは星の樣に自然に輝いてゐるのであります。

けれどもやがてフランシスはこの平和なクララのホームなるダミアノ尼院の庭から斷然離れやうと決心したのであります。彼の家庭なるポルチウンクララの兄弟達が段々最初の掟に離れて行くのを見、又彼等が餘りに自由に姉妹達の許に行くことは躓きの石となり易く、又彼自身が姉妹のホームに於いて享けるこの豊かな心の慰安が、彼には生涯を通じて負ふべき十字架の爲めに餘りに甘美な變態であり過ぎる樣に感ぜられて來たのであります。フランシスは

居ました。彼女は、兄弟達がフランシスの指導をあ
け得ると同じ樣に姉妹達も彼の指導を賜つてか
――それがなくて如何して弱いものが歩いて行け
う。フランシスは此の世の唯一人の師であり牧者
ある。彼の來り自分等を護り貴き祝福の饅を以

けるこの豊かな心の慰安か、彼には生涯を通じて負ふべき十字架の爲めに餘りに甘美な饗應であり過ぎる樣に感ぜられて來たのであります。フランシスは自分の心に與へられる此の個人的慰安を申譯けなく思ひ始めたのでありませう。彼は最初にクララに會ひ、彼女を自分の保護のもとに於ける奉仕者の生活に入れたのが決して自分自身の意志ではなく、其は天からの御旨であつたことを信ずると同じ樣に今自分は魂の慰安の庭なる姉妹達の尼院から段々姿を遠ざけることが神の意志に違ひないと信じたのであります。彼に對する個人的の愛慕が姉妹達を神の御姿から遠ざけてはいけないとフランシスは心配したことでありませう。フランシスは個人的悅びの一切をクリストの十字架に捧げたのであります。實に聖者は一切を見出す前に一切を棄て去るのであります。

けれどもクララはもつと廣い自由な考へを有つて

――それがなくて如何して弱いものが歩いて行けや
う。フランシスは此の世の唯一人の師であり牧者で
ある。彼の來り自分等を護り貴き祝福の糧を以て
分に養つて下さるやうにと切ちに眞心より願つたの
でありました。

フランシスは兄弟に勸められるまゝに或日ダミア
ノの會堂を訪れました。久し振りの師の來訪に悦ん
び溢れた姉妹達は彼の貴い說教の一句をも聞きもら
さじといたしました。其時フランシスは唯彼女等の
下に跪きました。そして祈つたのちに一皿の灰を
乞ひ其の灰を以て自分の周圍に一つの環を畫き、殘
つたのを自分の頭にパラ〳〵とふり撒いて、あの
ヴヰデの詩第五十一篇、大いなる贖罪歌を唱ひ出し
のでありました。フランシスが其を歌ひ終つた時に
彼女等はやがて彼の姿が自分は心から贖罪者の衣を
纏とひ灰を被るべき罪多き僕べに過ぎないと言ふや

うな謙つた姿をして靜かに扉の外へ出て行くのを見たのでありました。

彼は或日マッセオに對つて自分が神に選まれたのは神が自分に優つて小さな者、價値なき者、不十分な者を罪人のうちに發見されなかつたからであると語つたことがあります。フランシスは本當に自分の罪多き者價値なき者なることを感じては他人から美しく又清い者の様に持はやされることを恥ぢたのであります。

魂ひが焔える

クララは切ちに切ちに師なるフランシスの來訪を願ひましたが師の意志は仲々に動きませんでした。弟子達の手になつたフランシス行狀記三部作の一つなる「小さき花」にこんな物語があります。

クララは是非一度フランシスと共に會食を許されたく思つて居りました。けれどもフランシスは自分の心を顧みて、又兄弟達に對する模範のことを考へて其の切ちなる願を諾はなかつたのでありました

そこで一人の兄弟は見るに見かねてフランシスに願ひました。—父よ。汝の嚴格さは神の愛に適はしくありません。姉妹クララの様にあの様に貴く神に愛せらるゝ處女が唯あなたと會食を共にしたいと云ふ小さな願ひをして居るのに其をすら御許しにならないと言ふのは如何なものでございませう。ことに彼女はあなたの敎へに從つて此の世の富と榮えを捨てた者でございます。—そこでフランシスは暫かに考へて答へました。兄弟よ私も然う思つて居るのだ。あゝこの會食をサンタ・マリア・デリ・アンジエリで行やう。彼女は久しい間聖ダミアノの外へ出ないから此の聖マリア寺院—彼女が始めて髮を剪つてクリストの花嫁になつたところを見るのは必つと彼女を悅ばせるに違ひない。

クララは一人の姉妹とともに久し振りで尼院の門を出で悅びに溢れつゝポルチウンクウラへ參りました会て彼女が出家した夜、「アッシジの光の髮」と呼ばれてゐた金髪をフランシスの手によりて剃り落されたこの聖マリア寺に今は日頃願ひ願つたフランシスの自ら備へた地の上の謙遜な食卓に坐つて兄弟等とともに樂しい午餐をともにするのでありました。フランシスはぽつ〳〵と神の言葉を語りました。兄

太陽の讃歌

けれども悲劇的な晩年のフランシスも地上生活最後の二年間に於ては、より大いなる靈的確實安息の世界に到達したのでありました。其は彼

の自ら備へた地の上の謙遜な食卓に坐つて兄弟等とともに樂しい午餐をともにするのでありました。フランシスはぽつ〳〵と神の言葉を語りました。兄妹等はその言葉に心から醉つて空を仰いで手を擧げて神を讃美して居たのであります。

丁度この時アッシジの町の人々はサンタマリアの會堂と森とが炎々と天を焦がして焔え上がつて居るのを見たのであります。けれども驚いて馳せつけた彼等が更に驚いたことには其處はいつもの樣に靜寂で唯聖マリアの堂の内にフランシスとクララ及兄弟達が神の愛に焔えしもの丶如く祈りに醉つてゐるのでありました。

この傳說を如何お考へになりますか?、浪漫的中世紀の一篇の詩と考へるならば其は餘りに天來的な美しい象徴詩ではありませんか。

けれども悲劇的な晩年のフランシスも地上生活の最後の二年間に於ては、より大いなる靈的確實さ安息の世界に到達したのでありました。其は彼が聖痕を受けてから後のことで其の時分からは彼は又自由に屢々クララを訪れたのであります。

かの聖痕によつて彼の心に忘れ得ぬ聖地となつたヱルナの山に向つて「さらば神の山聖き山―山ヱルナよ、父と子と聖靈の神汝を祝福し給はんことを。我等は再び互ひに相合ふこともないであらう」と最後の別辭をのこした聖フランシスは病苦に衰へた體を驢馬に跨らせて故郷の方へ歸つて來ました。沿道の村人は橄欖の葉を振つて聖者を迎へましたが彼の肉體は生ける者といふよりは寧ろ死せる者の樣であつたのであります。

その中にも眼疾は激しくなつてフランシスは殆ど失明の有樣となりました。しかし僧正ウゴリー及

兄弟エリア其他の强請にも拘はらず彼は醫者の招待を拒んで唯一つの途――身を純潔にし、單純に一切を天の父に委ねるのでありました。彼の向つたところは聖ダミアノでありました。「然うだクララの許へ行つてお別れを告げやう、そして少し許り彼女の傍にあつて憩ませて貰はう」から思ひながらフランシスがダミアノへ來た時には彼の病勢はもう甚だしく募つてゐたのでありました。それは千二百二十五年の多分七月でありました。そして九月の初め頃まで彼はこの處に滯留しました。

毎日フランシスは長い間獨り啜り泣いて居るのでありました。心より「父」を迎へたクララは自分も手傳つてダミアノ修道院の庭内に葦を以て編み合はせた一つの庵を建て其處にフランシスの病體を看護したのでありました。其處にあつてフランシスは十五日の間は全く盲目となり日光をすら辯ずることは出來なかつた上に、小屋の藁壁に巣を造つた野鼠の群は彼の顏や床の上を走り廻つて夜も晝も休まることが出來なかつたほどでありました。

しかし其の苦惱の日にあつても彼は神の御意を信じました。ヨブの心を以てフランシスはあらゆる苦しみの中に感謝すべき主の御聲を聞いたのであります。あゝ苦しめる者の傍らにあつて眞に彼とともに苦しみ得る友が如何に彼を耐え忍ばしめ元氣づけ、明い希望の世界へ導いて來るかといふ實證を私達はこゝにクララによつて與へられるのであります。

クララは沈默せるフランシスの心を洞察することが出來ました。彼女は全靈の愛――地上の愛以上の愛を以て心靈の父の足許に坐し彼の靈魂の悲痛の爲めに祈るのであります。かゝる時フランシスは失明の眼に溢れる涙とともに二本の木片を拾ひ上げ一本をヴヰオリンの樣に肩にあて他の一本を弓の如く動かせて聲を上げてフランス語の歌を歌ひ出すのでありました。（これは彼の歡喜の時の癖であつた。そしてよく彼は踊り出し泣き出すのであつた）

「太陽の一條の光線が多くの陰影を追ひ拂ふのに充分であつた」とフランシスは常に言つて居りました。そして今や聖クララは彼の苦しい心にもう一度平安を、も一度信仰と勇氣とを與へたのであります。

フランシスは彼の生涯にとつては慕はしい追憶の場所――燦爛たる若い騎士として背馬を繋いだ橄欖

に始まりて、

わが主を讃へ感謝せよ
しかして謙虚もて彼に仕へよ

に終はるのであります。この歌に於て彼は最もよく彼自身の自然に對する愛と歡喜と神に對する感謝を

一層價値を與へたのであります

フランシスは彼の生涯にとつては慕はしい追憶の場所――燦爛たる若い騎士として昔馬を繋いだ橄欖樹のある庭、父から勘當されて隠れてゐたところ、自分が一生を廻轉させられたあの神秘な十字架のある聖所、そして今はクララ及姉妹等の修道院なる――この聖ダミアノに於て滅えやうとする蠟燭がぱつと明るくなる樣な元氣を以つて一日クララと長い物語りを交はせたのち修道院の食卓につくとやがて突然に歡びに溢れた者の樣に、

　主を讃めまつれ

と叫んだのでありました。彼はこの時大いなる「太陽の讃歌」"Cantacle of the Sun" を作つたのであります。それは

　いとも高き、全能なる主よ
　讃美と榮光と譽れと凡ての祝福は爾のものなり

　しかして謙虚もて彼に仕へよ

に終はるのであります。この歌に於て彼は最もよく彼自身の自然に對する愛と歡喜と神に對する感謝を現はしました。特に兄弟太陽に對する祝福を歌つて彼はあの爛爛たる焔と光輝のために神を讃美したのであります。

初代に於けるが如き詩的、藝術的な大歡喜が再びフランシスに歸つて來ました。彼は至る一週間、日讃祈禱書の代りにこの讃歌を反覆して歌ひ、兄弟達をしてこの歌を歌つて村から村へ新しく巡歷傳道の旅に出て行かせやうと考へました。彼は死の床に於てまでこの歌を歌はしめたのであります。

サバティエは附け加へて言つて居ります――

この「被造物の讃歌」は實に崇高の極みである。けれども其は尚一節を缺いてゐる。其はフランシスの口には上らなかつたけれども確かに彼の心の中には

あつたのである。——その一節といへば

姉妹なるクララの爲めに主を讃めよ
爾彼女をして默さしめ働かしめ聽からしめ
かくて彼女により我等の心に爾の光を輝がし給
へり

と云ふのであります。

フランシスはやがてクララと姉妹に別れを告げました。彼はクララの造つて呉れた一足の履を足につけてリエテイの方へ向つて去つて行きました。

これが地上の生命を有つたフランシスとクララと最後の別離であつたのであります。

八・一三

Be still then, and know that I am God. Psalm 46; 10.
It is not easy to recognize Christ in the crowd.
In order to see Him our mind needs some retirement and solitude.
If we will be still and listen and watch, we shall hear and see.
Silence is the author not of sorrow but of joy.
Power and concentration are almost identical.
Desire, thought, will, the whole personality are in our silence, deliberately concentrated upon God.
Great Concentration is always great activity.

第十五回夏期修養會の感

東洋英和女學校 内垣泰子

一

何といふ不思議な力にちからづけられてあの山を

恥づべき事だと氣づきました。私は今年の修養會がとかく感情に囚れ易い乙女達の心に、一層深く神を認めしめた事と思ひます。多くの豫言者が荒野で修

一

東洋英和女學校　内垣泰子

何といふ不思議な力にちからづけられてあの山を下りましたらう。最後の夜はあれ程までに惜しまれましたのに。

七日間の尊いかては、鈍い心にも眞に生きて行かうといふ健氣な決心を熾ならしめました。勿論「もつゝ居たい」といふ執着の思ひは絶えませんでしたが、大きな大きな使命を感じました時に、神の使の一人として丘を下る事をどれだけ光榮に感じたか知れません。私は思ひました。ヤコブの夢に現れた天使の通ふ梯子を想像して、自分は七日前にあれを登り親しく神の御旨をうけて、やがて再び降つて行くのではなからうかと。

かう考へました時に、今迄小いと思つて居た自己といふものをも此まゝ葬つて終ふのは、神の御前に

耻づべき事だと氣づきました。私は今年の修養會
とかく感情に囚れ易い乙女達の心に、一層深く神
認めしめた事と思ひます。多くの豫言者が荒野で
養したやうに、自然といふものが神の御業を表し
居ることは爭はれぬ事實と存じます。ですから私
が汚れた世を遁れて神と交らうといふ時に、雄大
青海の眺望、移動の烈しい天體を縦に仰いだこと
確に私共をいよ／＼神に近づけたと思ふのでござ
ます。

尚私は考へて見ますのに、若し修養會といふもの
が唯聖書研究にのみ止るものであつたら、きつと
字に囚はれた不滿足が起りはしますまいか。寂寞
感じはしますまいかと。けれども獻身された先生
や幹部の方々の御優握な御樣子に朝な夕な御接し
す時、いつしかキリストの愛は私共の中に生きて
其間に益々自分の求むべき道を追はむために、喜

で進む事が出來たのでした。何といふ尊い御生涯を送つておいで遊すのでせう。導くもの〻個人性格といふものが道を求めつ〻あるものには大きな影響のあることを痛切に思ふのでした。使命を感じて立つ前に先づ私は充分自己修養が肝要だといふことを、今度深く〳〵感じて來たのでした。私はよい機會の與へられたのを感謝して、もう少し麗しい御精神に觸れむことをのぞみましたが、それにはあまりはかない七日間でした。

　それから私は私の生命を思ひました。私にも神は等しく生を御與へ下さいました。これをどうしたら神のために使ふ事が出來ませう。私にはこれからどんな道が與へられるかわかりません。けれど置かれた立場でなす出來るだけの奉仕は困難な事ではありません。私は今度はほんとうに眞劍になつて、私の生涯の目的と方法とを考へなければ居られなくなりました。眞に生命の價値を認めるものが多くなればなる程、地上に天國の建設される日は近くなつて行くのでございます。私は若しそれがその國をかためる爲になくてならぬものならば、ほんの僅かな、けれども信實な土くれとなることを切望いたします。

此修養會により與へられました聖書の知識と暖かい愛の精神とが永久に生きて働くやうに。私は先づ赤裸々の自分を神の前に投げ出して懸命に祈りませう。やがて神が私を用ひ樣となさる時に私は喜んで其光榮にあづかりませう。

　私は今年の修養會によつて、深い印象と新しい決心の與へられた事を、偶然ではなく、計り難い神の思召しに外ならぬ事と感謝しつ〻、希望を以つて新生涯の門に立つた者でございました。そして私共は青年會の限りない生長を祈るものでございます。

恐れは逃るべき道を知らず。
されど愛は追ふべき道を知れり――タムソン――

二　S・S

個人的罪惡に對しては攻める方が勝つ、攻めらる〻方が負ける。然し社會的罪惡に對しては攻める方が苦しむのである。

限りない喜びと感謝の思ひを以て横濱の丘に去つた數日を、再び心に浮べながら今靜かな舍に澄んだ月を眺めて居ます。

七日間は私にとつて本當によい修養でした。貴い經驗でした。修養會を去つて今靜かに自分をふり返

されど愛は追ふべき道を知れり——タムソン——

創造されし者の人格は創造者の人格を知らないでは解らぬ。

社會は貴女等の心と手とを待つて居る。然るに何故貴女等は立たないか?。

三　よし子

「第三番目——神第一、人第二、自己第三」

開會式の夜伺つた此御言葉は、私の耳朶に今なほ響いて居ります。第一事　第一 (first thing first) 此上に堅く立つて一歩〳〵をしつかり踏みしめて進みませう。

四　あきら

月を眺めて居ます。

七日間は私にとつて本當によい修養でした。貴
經驗でした。修養會を去つて今靜かに自分をふり返
つて見て、會が自分にもたらした力の餘りに大き
ことを驚いてゐます。僣越な考へ方だつたかも知れ
ませんが、行く前には「自分は出來るだけ與へられ
るものは與へやう、自分から奪ふものがあれば誰に
でも惜しまずに奪はして上げやう。得やうと望む
い。あせるまい。唯分つ事が出來るやうに。」と願つ
てゐました。然し結果は全く反對でした。おそらく
私は何も與へる事が出來なかつたやうです。それだ
のに私は澤山のものを戴く事が出來ました。貴い貴
いものを得る事が出來ました。その貴い寶を失ふま
い、傷けまいと今は一生懸命に抱きしめて居ます。
始めから終りまで清く樂しくあるべき修養會は私
にとつては、決して容易いものではありません

た。苦しい戰ひでした。ひたすらに祈りの心で通しました。「自分一人の生活にある時、私は自分より一歩も出ることが出來ません。それで自分の明らかな姿を見失つて居ました。多くの人の中、殊に自分とかけはなれた未知の人々の間に入つて見た時、始めて自分といふものを明瞭に視ることが出來ました。そして自分の價値を可成赤裸々に知る事が出來ました。美しく、すなほに伸びて居らるゝ方々の本當に氣高いきらめきを見る時、私は強いショックを與へられ、内省させられ、幾度自分に恥ぢたでせう。餘りに不純な、高慢な、小賢しい自分と自分の生活とを見て本當に自分をさげすまずに居られませんでした。概念的に人を愛したと思つて居た自分は、實際に於て愛の力を持つてゐないことを思出しました。内に何の愛も目ざめて居ないのに、無理強いに自分の愛を絞り出そうともがき焦つて居たのでした。そして僞りだらけな、矛盾だらけな、つぎはぎのやうな穴のある生活だといふ事を切に思つて來ました。

自らの不純、凡ての罪とがをつくる自分の弱さ、小ささのために悲しまずに居れませんでした。けれど自分の小さい事、弱い弱い者である事を知つた時誰の前にもひれ伏して行き度いやうな謙讓な心になれました。ひたすら神の愛、神の力に縋るやうにせられました。其時私は一歩神に近づいて居ました。心から「父よ助け給へ」と祈る事が出來たのです。「我よわき時に強し」と云つた聖者の經驗を沁々と感じて本當に感謝と歡喜に充されました。

自分のこの謙讓な思ひが、神と結ばれて一つになつた時、その純一なものを以つて人の前に清い心で出て行かれたのです。寛い心で誰をも友と呼び度い愛したい許したい思ひの湧くを覺えました。私は此心を素直に此まゝにのばしたいと切望して居ます。自らの心にそなへのある時、自分が心の底から素直になれてゐる時、本當に他人の内にある清い貴いものを見出す事が出來ます。そして私は自分の内に言葉に云ひ表すことの出來ない貴い力を與へられたて

とを感じて來ました。この力を失ふことなく豊かな愛の内にますます確かなものとして行き度いと思りてゐます。

内なる力が、生命が眞實に滿ちてくる時、外なる

歸りましてから新鮮に充ち充ちた生活をしてゐます。喜びに充ちた心は凡ての疲れを忘れさせてゐます。此心を恒の心としなければなりません。夏休中はずつと修養的の生活に入り度いと願つてゐます。

てゐます。
　内なる力が、生命が眞實に滿ちてくる時、外なる生活にもつと／＼輝いた高いゆかしいものがあらはれて來るだらうと思ひます。私は今本當に傷けられる事を、こはされる事を怖れて居ます。今果實が熟そうとして居ます。熟しきる迄もぎとられ度くありません。一面に又私はあせつて居ます。早く熟させたいと。然しやはり内部から自然に熟して來るものを待たねばならない事を知りました。焦つては駄目だと思つて居ます。私はしづかに祈りつゞけて居ます。本當に無理のない、きれいなゆたかなものが流れ出て來るやうに、神により縋つて求めてゐます。私はもつと／＼神と一つにならねばなりません。捨て去らねばならないものをまだ／＼澤山有つてゐます。動きつゝ、熟しつゝある此力が、生長して行く豫感が鋭くいたします。

す。此心を恒の心としなければなりません。夏休はずつと修養的の生活に入り度いと願つてゐます。休み中に本當に確かなものになれましたらば、新しい學期に青年會の爲に大きい働が出來そうに思れます。きつと何か力強いものを生み出す事が出來ませう。只一人でも眞劍になり切れた時、その力は何でもを動かす事の出來るものだと信じます。
　とにかく私の力にあふ限りのことはして見る考す。人に對する愛と謙遜と忍耐とを以てすれば、どんな人をも動かすことが出來るやうに思はれてならません。とは云へ眞劍になればなる程、困難な問題もある事を思はずには居られません。
　返す／＼も修養會の一員に私が數へられたことを感謝してゐます。斯の數日の生活は慥に私の一生の記憶すべき貴い一階段である事を信じます。

七・三〇

對話

十人の童女

——(マタイ二五章)——

大磯仁

出る人——
童女十人、
家の女一人、
春の宵。

右手にドアのある長い廊下の側面。正面中央に長い腰掛けがあり、その背後に大きな窓があつて、花の咲き亂れた庭の面。美しく燈火のついた母家の遠景などが見られる。

・ ・ ・ ・ ・

最初に次の歌が聞えて來る。

ともしびをともし　目をさましてまたん
主かどにきまさば　よろこびむかへて
親しく我主に　つげまつらまほし

第五の童女。ものみなが美しい今宵、私は今宵こそ、尊い御婚禮に一番ふさはしい時と思はれますの。

童女一同。世にも美しい御婚禮にお招ね下さる幸福よ、感謝よ、御禮の言葉もないほどでございま

救をうけしは　御恵なりきと（さんびか一八〇）

左手から、手に手に、燈火を持つた十人の童女登場。

第一の童女。聖い美しい夜ですこと、青い御空には銀砂を撒いたやうにお星樣が光つてゐますわ。

第二の童女。また、たいへん靜かな夜ですこと、こんな平和な晩には、小鳥たちも森のねぐらに歸つて樂しい夢を見てるのでせうね。

第三の童女。微風につれて、得も言へぬ良い匂ひのするのは、お庭のバラの花からでせうか。

第四の童女。微風はくさぐさの花の香りを乘せて來るばかりでなく、また、私達の持つて居る燈火をゆらゆらと夢のやうになびかしてゐます。

婿樣は美しい燈火がたいへん好きなのですからね。

第七の童女。今宵のお婿樣のお姿は、どんなに御立派なことでせう。早く御目にかゝりたいものですね。

童女一同。世にも美しい御婚禮にお招ぬぎ下さる幸福
よ、感謝よ、御禮の言葉もないほどでございま
す。

（此の時家の女ドアより出で一同と禮を交しつ
ゝ）。

家の女。これは皆様。良うこそおいで下さいました。

童女一同。今晩は……。お目出度うございます。私
どもは今宵の御盛儀をお祝ひに參りました。

家の女。有難う。ほんたうによくおいで下さいまし
た。

第六の童女。（燈火をかゝげ）まあ、この燈火を御覧
下さい。私どもは「燈火がなくてはお祝ひに出ら
れぬ」といふおきてに從つて、かやうに揃ふて持
つて參りましたの。

家の女。それはまた、儀式をお守りなされて有難う。
お婿様はどんなにかお喜びでございませうよ。お

第七の童女。今宵のお婿様のお姿は、どんなに御立派
なことでせう。早く御目にかゝりたいものです
ね。

第八の童女。お婿様のことをある人が「峯の櫻、谷間
の姫百合」と歌ひましたが、今宵はまたどんなに
崇高く、美しくおゐでなさることでせうね。ほん
たうに早くお目にかゝつて、お喜の言葉を申し
上げたいわ。

第九の童女。（家の女に）そして、お婿様は未だ見
えになりせんの。

家の女。えゝ、まだおいでになりませんが、間もなく
おいでになりませう、しかし、若しや後れて長く
なつたりするといけないから、どうぞ、お樂にし
て、ゆつくり、お待ち下さい。

第十の童女。ではゆつくりしてお待ちしますわ。そし
て、お出での節には、急いでお迎へに參りませ

う。

家の女。どうぞ、さうして下さい。いづれおいでの時はお知らせに參りますから。ではまた後程……。

(家の女ドアの中に退く。一同燈火を消し、窓のカーテンを閉め、腰掛によりて眠る。)

やがて、窓外を燈影が往來し、次第にその數をますと遠方より夫の歌が聞えて來る。

もろびとこぞりて　むかへまつれ
ひさしくまちにし　主はきませり
主はきませり　主は主はきませり
(さんびか　五七)

この歌を聞くや否や第一より第五の童女、めざめて起き、手早く燈火をともす。

第一の童女。まあ、嬉しいこと、嬉しいこと。待ちに待つたその時になつたわ……。

第二の童女。ほんたうに、こんな嬉しいことがまたあらうか。(第六より第十の童女に)さあ、さあ、あなたがたも起きなさいな、お婿様がおいでになつてよ。あれ、樂しい歌聲が近づいて來ますわ。

第四の童女。さぞお困りでせう。同情しますわ。けれども私達は生憎、私達の分だけしか用意して來ませんの、ですから、上げるわけには行きませんわ。

…くの、困つたことになつた。

(第六より第十の童女めざめ用意てゝ燈火をともさんとするが油がないのでつかぬ様子。)

第六の童女。あら。私の燈火は油がすつかり盡きでしまつたわ。

第七の童女。まあ私のもすつかり……。

第八の童女。あら、私のもよ……。

第九の童女。さう言へば私のも無くなつたわ……。

第十の童女。駄目、私のもつきやしない……。

第六の童女。あゝ、私こまつたわ。どうしやう。燈火がなくてはお祝ひに入ることが出來ないのに……。

第七の童女。ほんたうにどうしませう。(第一より第五童女に)して、あなたがたのはちやんとついたのですね。

第三の童女。私達は若しや待つやうなことがあつてはと、油を餘分に用意して來ましたの。

第八の童女。よいことをしましたね。では後生ですから、あの……、少々分けて下さいませんか。私達はもう困り拔いてゐるのですもの……。

さい。

(童女五人、歌ひ乍らドアの中に入る。)

夜晝いつとしらず　主來りたまはん
燈を手にとりて　まつものは誰ぞ
主よ主よ速くきませ　そなへはなりぬ

せんの、ですから、上げるわけには行きません
わ。

第九の童女。　まあ、困つたことになつた。

第五の童女。　ではしかたがないから、急いで町へ行つて買つて來られたらいゝでせう。

第十の童女。　さうですね。その他しかたがないし、おや走つて行つて買つて來ませう。

第一より第五までの童女。　速く行つていらつしやい。

（燈火のない童女達左手へ退く。カーテンの外次第に明く。歌聲いよ〳〵高くなる。

常暗の世をし　てらしたまふ
あまつみひかりの　主は來ませり
主はきませり　主は主は來ませり。

家の女ドアを開いて出る。）

家の女。　皆様、お待ち遠うでございました。さあ、いよ〳〵その時になりました。急いでお出迎へ下

夜晝いつとしらず　主來りたまはん
燈を手にとりて　まつものは誰ぞ
折返　主よ主よ速くきませ　そなへはなりぬ
主よ主よ速くきませ　わが備はなりぬ

ドアの中からも

思はぬをりきたまふ　主をむかへつゝ
あまつくにの榮光に　いるものは誰ぞ
折返し同じ　（さんびか　一一〇）

靜かになりたる時他の童女燈火を持つて歸る）

第六の童女。　（ドアを叩きつゝ）もし〳〵、私ども
入れて下さい。燈火を持つて參りました。お婿
にお目にかゝるために、どうぞ入れてやつて下
い。

内の聲。　最早この扉は閉ぢられました。先程までは
いて居たが、今はすでにおそく何人も入れる

が出來ませぬ。どんなに叩いても凡て無駄です。お氣の毒ですがお歸り下さい。

第七の童女。どうぞ、さうおつしやらずにあけて下さい。先程まで此所にお待ちして居たのですが、油がなくなつたため町へ買ひに行つて、止むを得ず後れたのです。どうぞ、後生ですから入れて下さい。

（間――内から何の答もない）

第八の童女。あゝ、もうひつそりして居る。何の答もしない。この奥の廣間では數限りない燈火が輝いてゐて、花やかな幸福の饗宴があるであらうに、私達は閉ざされた扉の外に立つたまゝ、空しく更けて行く夜を見てゐるばかりだ……。

第九の童女。思へば愚かな私どもであつた。大切なお迎へであるのに、大事な燈火の油を忘れてゐるとはなんといふ情ない事であつたらう。

第十の童女。賢くも備してゐて、今は幸福の裡にゐる五人の方々、あの人々にこそ我らは習ふべきであつた。その時はこんな苦しみに泣くことがなかつたであらうに、あゝ愚なわが身、わが心が悲しまれてならない。

（淋しい歌聲が聞えて來る。一同頭を垂れて聞く。）

いよよ更くる夜はさびし
おとめごなげけど　とはにあかず　救のかど
ときはすでにおそく　ときはすでにおそく
とはにあかずすくひのかど
ときはすでにおそく

あはれその身　主をまつもの
心をかためて　主をむかへよ　おくるゝなく
主すぎまさばむなし　主すぎまさばむなし
主をむかへよおくるゝなく
主すぎまさばむなし

（さんびか　三四二の譜）

此の歌の消えたる時、右手のドアを開いて先の五人の童女及び家の女ともに歌ひ乍ら出づる。

後の五人もこの歌に和す。そして凡ては失望に希望と光明とをもつて包まれる。

歌。

はなむこきまさばともしびの
そなへはいかにや、かゞやくや

エルキントン氏の訃

（河井先生よりの御手紙の一節）

私が英國につきましたのは六月十九日の夕方でした。ニトベ

はなむこきませばともしびの
そなへはいかにや、かゞやくや
その夜、その夜に、ともしびをもていで得るや
そなへよ、そなへよ、はなむこきたるとき
ともしび、そなへて、はなむこをむかへよ。

（リバイバル唱歌六五）

（終）

「主よ、主よわれらの爲にひらき給へ」と云ひしに答へて「まことに汝らに告ぐ、我は汝らを知らず」と言へり。されば目を覺しをれ、汝ら其日その時を知らざるなり。

（河井先生よりの御手紙の一節）

私が英國につきましたのは六月十九日の夕方でした。ニトベ夫人と一緒にパリから參りステーションに博士の御出迎ひを受けました。丁度私共の汽車が到着した頃に夫人の令兄エルキントン氏は永眠されたのです。其日は平常より氣分よしとて午後は椅子により「河井道子が來たら此側に腰かけて日本の事を話してくれる」等と申され居りし由なるに、夜分に至り俄に苦痛を感ぜられ僅十分許りにして靜かに逝かれたしとの事です。其夜私共は同じ屋根の下に一泊し翌日他に宿を定めました。エ夫人及令孃の靜かな態度と涙の中にも笑の輝ける美しさと、故人は靈に於て尚一層近くありとの信仰とは周圍の者に深厚たる敬虔の念を與へました。エ氏は實に大海の樣な愛の漂ふた人格です此度の渡歐も歐洲中央部の飢餓を憂へ其救濟の爲、愛の精神を行はん爲でした。地上を去りし今氏は一層自由に神に奉仕して居らるゝ事を信ずる遺族や友人は、悲しみの中にも平和と喜とを感じて居ます。（三六頁につゞく）

誌友の頁

投書を歡迎致します
締切毎月十五日

堀順子

天を仰いで神の聖を見、地に伏して神の愛を學びたい。接する人一人一人の中に神の存在を認め、これを尊重し、神として待遇し得る心が欲しい。

靈なる神が支配し給ふ故、世の萬事が靈的であるに相違ない。然るに或者を靈的とし、或者を物質的とよぶのは、我々の無智と盲とによるのではなからうか。時には卑しいもの、低いものつまらないものに見え、それにたづさはる人を俗化する樣に思はるゝ世の雜事、これも靈の世界の一部分を形成して居る事を常に記憶して居たい。誰にも容易くなし得る小事は必しも Less divine な Less spiritual なものではない。其中にも、生ける神は斷えず働いて居給ふ。恐れ怖かざるを得ない。

わが心臟のうた

齋藤みどり

海かなしうるめる眼もつみなしごが磯邊に立てば抱かんとする

一切のものうくなりぬ若くしてわれ老いにけむ悲しとおもふ

火も吐かず煙もいでぬ山のごとおとろふる身をわれとあはれむ

默しつゝうたをうたはん目さめつゝ眞珠のごときゆめを結ばむ

ふと我にかへりて見ればおかしけれ芝居のごとく泣きてありしよ

ピアドロヽサ

みよし

A「○子さんピアドロヽサをお讀みになつて?」

B「[illegible]題は、[illegible]ですよ。一體それは何の事?」

[illegible]を歩むものでなければ決して[illegible]る事は出來ない」といふ意味で、左樣名題をつけられたのだらうと思ひます」

B「其本は一體あなたにどんな感銘を與へて?」

A「いろ〳〵の事を敎へられ、考へさせられ、祈らされ[illegible]

Ａ「〇子さんピアドロヽサをお讀みになつて？」
Ｂ「否標題さへ初耳ですよ。一體それは何の事？」
Ａ「基督が棘の冠を冠り、十字架を背負つてよろめきながら歩いていらしつたゴルゴタ迄の路をピアドロヽサー惱み道といふのですつて。あのいつかＥ先生が今でもパレスティナに其跡が殘つて居てピアドロヽサといふつて仰有つたでせう？」
Ｂ「さうでしたつけね、すつかり忘れて終ひましたけれど。そして其本には其ピアドロヽサとかいふ路の事が書いてあるんですか」
Ａ「路の事つて、そう地理の教科書みた樣な本ではないのよ。まあキリスト教の根本義とでもいふやうな事を割合に解り易く、綺麗な文章でしんみり書いてあるといつたらいゝでせう。著者の語を借りて云へば「十字架を負ふて基督と共に　Via

られたのだらうと思ひます」
Ｂ「其本は一體あなたにどんな感銘を與へて？」
Ａ「いろ〳〵の事を數へられ、考へさせられ、祈らされ、近頃にない深い感激を與へられました。それで是非あなたにも讀んで戴き度いと思ひます—
Ｂ「では試驗をするやうですみませんけれど、讀了後一番深くあなたの記憶に殘つて居る言葉をどこか
せて下さいませんか」
Ａ「さうですね、澤山ありますけれど、例へば神を求める人の心の事に就て著者は、「聖アウガスチンが
傷いた心を包む事もしないで、血を滴らしながら迷ひ歩いたのも、
或は若きダンテが胸の苦悶に堪えかねて山間の修道院に訪れたのも
皆抱かれて泣くべき愛の懷を探し求めたのではないか。人の心の深
き要求が目醒めるならば誰しも神を求めて平安を神の中に得な
ければ滿足しないものである」といふやうな事を言つて居
られます。それから私達がいつもはつきりし

度をさめかねて困つて居る愛に就ては「兎角青年は日々接する個人を愛せずして凡ての人を愛そう」といふ樣な架空的な考に捉はれ易い。眞に天國を愛する人は此現世を何物よりも愛する樣に、眞に人を愛する人は單に抽象的な人類といふ概念を愛さないで日々接する個人を愛するのである。基督が「人類を愛せ」と云はないで「隣人を愛せ」と云つた所に彼の理想主義者であつて而も、徹底した現實主義者である事がわかる」と說明してあります」

B「で、一言に云ふとどんな本なのですか」

A「書名で見てもわかるやうに決して華やかな輕い氣分を與へる本ではありません、けれど、本當に眞面目に考へさせる一言で云へば敬虔な祈心を與へる本とでも云ひませうか。とにかく私には大變深い感激を與へた本でした。」

B「丁度そういつた樣な本が讀みたいと思つて居た時ですから是非讀みませう。御親切を本當にありがたう。」

A「美しい魂であるよりも美しい魂になる方がよい幸である。其所に眞の悅びがある。」との著者の言葉は今も私を激まして居ます。」

(三三頁より續く)

六月二十二日は晴天でした。午後一時エ氏の亡骸をロンドンの市外ジョルトンスと申す所に葬りました。此所はクエカー派の人々には至極大切な場所です。即ちウキリヤムペンが一七一八年に埋葬された地です。地上より二尺たらずの薄い石碑が斯の米國ペンシルベニア州の開拓者ウヰリアムペンの跡を傳へて居ります。此事は、天に名の記さるゝを以て喜びとなし地上の虚榮、虚譽を嫌ふたクエカー派の人々のゆかしさを語つて居ます。此所には又詩人ミルトンの書記で彼の傳記著者なるトマスウードも眠つてゐます。僅に哩の所には詩人がパラダイスロストを書いた場所もあります。

青々とした麥畑、其を彩る深紅のケシ、翠滴る森のかなたにかくるゝ牧場、其を圍む果樹園、そして其近くには教會があります。エルキントン氏は曾て此所に來られ斯る所に眠りたしと云はれしとか。神と人とに奉仕して寸時の暇もなく活動せし人には相應しい休息場です。

學生青年會員諸姉の御一讀を乞ふ

全國二十九ケ所の學生部女子青年會の中、今夏修養會に代員を送られし會は別項報告の

二、夏期修養會々場敷地

日本基督教女子青年會學生[illegible]へ、先生の御働の運轉資力の一部は全國學生青年會により供給せられつゝある事を、私共は密に誇として居るのであります。

[illegible]

三、雜誌「女子青年界」の件

宗敎的婦人雜誌の殆皆無と申てもよい日[illegible]の社會の一隅に、微弱ながら一の使命を[illegible]

全國二十九ケ所の學生部女子青年會の中、今夏修養會に代員を送られし會は別項報告の如く二十三に達して居ります。殊にそれ〲興味深く特徴のあらはれた報告をもたらされた事は幹部一同の大なる喜びでした。

此所に同會中開かれました協議會で、同部青年會に本部が提出して、御贊同を願ひました三つの問題の大要を記し、御出席なかりし會の方々の御參考に供し且御一考を煩し度存じます。

一、負擔金の件

學生部から本部に送らるゝ負擔金に關しては今迄明記の規定がありませんでした。本部の希望は今後、一ケ年總收入（會費及臨時收入をも含む）の一割を負擔金として送られ度事であります。此負擔金は全部河井總幹事の學生間の働に費やされるものでありまして、

青年會により供給せられつゝある事を　私共は密に誇として居るのであります。

二、夏期修養會々場敷地購入の件

未だ何等具體的の運びに至つては居りませんが近き將來に於て、（出來れば來年の夏迄に）適當な場所を得度希望であります。是は多くの方々の御助力を戴かねば到底爲し得る事ではありませんが、私共は殊に修養會共もが主に學生の爲であり、其所に集まられる方々の多數が學生である所から、學生部の方々に訴へて意義深い御盡力を願ひ度存じます（數字的の豫算は立ち次第御報告申します）就ては來年の夏迄の一年間に之がため各地の學生青年會で是非何かの催しを一同開いて戴き度いのです。バザーでも音樂會でも其他の御企でもそれは御自由でございます。大變厚かましい御願ですが御事情の許すかぎり御承

の件

宗教的婦人雜誌の殆皆無と申てもよい日本の社會の一隅に、微弱ながら一の使命を確信して此小冊子を發行して居ります。紙價印刷費共に高價な今日値上げも餘りせず殆原價の儘提供して居ります。此雜誌につきましても亦學生青年會の方々の御助力に俟つ所あらんとして居るのです。理由は第二件と同樣に雜誌の性質が女子學生を目的としたものであり彼等の精神的訓練にいさゝかにても盡す所あらんとして居るからであります。此際各學生部に於て購讀部數十部に充たざる會では少くとも十人の購讀者を募つて戴きたいのです。之は可成早く實行の運びに至らせ度き當局者の希望でございますから、御盡力を切に御願致します。

以上三件につき會員諸姉と御熟議の上、御意向を十月末日迄に

伺はせて戴き度く存じます。會員各自の御考へはあく迄尊重し無理な事や不自然のない決定をおきかせ下さる樣に切望致します　御質問には喜んで御答へいたしますから御遠慮なく仰せ下さい。

女子青年會本部
學生部

第十五回夏期修養會報告

出席者總數　四百拾參人
內譯　講師十八人　女子青年會職員委員三十九人
會員及學生二百六十二人　家庭にあるもの四十五人　教師十九人
舍監三人看護婦一人保姆二人事務員二十三人
代表されし教會十三
代表されし學生部　二十三

東洋英和女學校（東京）
東京女子大學（同）
青山女學院（同）
女子英學塾（同）
女子學院（同）
遺愛女學校（函館）
神戸女學院（神戸）
金城女學校（名古屋）
福岡女學校（福岡）
フェリス女學校（横濱）
共立女學校（同）
捜眞女學校（同）
横濱英和女學校（同）
梅花幼稚園（上田）
ウヰルミナ女學校（大阪）
廣島女學校（廣島）
宮城女學校（仙臺）
札幌女子青年會（札幌）
プール女學校（大阪）
梅光女學院（下ノ關）
山梨英和女學校（甲府）

靜岡英和女學校（靜岡）

代表されし市部　五
東京女子青年會　横濱女子青年會
大阪女子青年會　神戸女子青年會
京都女子青年會

代表されし他の學校　十八
東亞高等豫備學校（東京）
帝國女子專門學校（同）
女子美術學校（同）
双葉高等女學校（同）
音樂學校（同）
三田高等女學校（同）
成女學校（同）
女高師附屬高女（同）
府立第一高等女學校（同）
和洋裁縫女學校（同）
日本橋高等女學校（同）
女子高等師範（同）
藥學校（同）
順正高等女學校（岡山）
横濱高等女學校（横濱）
共立女子神學校（同）

修養會出席者より

○　大阪　丸尾克

神樣の御恵によりまして不思議にも私の樣な者が學校より選ばれ濟き修養會に出席させ

…さい信仰でした。そして私のやうな最も小い者でも神の爲に盡し神を喜ばせる事が出來得るといふ事でした。自分は神の爲につくしたい、青年會の爲に働きたい　といふ心がむら〳〵起つて參りました。どうぞ私のやうな者

○ 大阪 丸尾克

神樣の御惠によりまして不思議にも私の樣な者が學校より選ばれ淸き修養會に出席させて戴き、敬愛する多くの先生方と御交り致す事が出來ました事を身に餘る光榮と深く感謝致して居るのでございます。又今年卒業の年に當りまして私の將來につき一大決心をなす事が出來心より感謝して居ります。

私は誠に微々たるものではございますがどうかして同胞姉妹の爲に働きたく存じます。どうして普通の娘の樣に部屋の奥に坐つて平凡な生活をして居られませう。そんな時代ではないのです。私は先生方からお話を伺つて初めて眞に心が醒めました。今迄は唯大阪で申す船場の娘として卒業後はお嫁入りの仕度をして……とのみ考へて居ました。本當にそんな考へを持つて居る時ではないので御座いました。私は神の御命令が下る迄懸命に準備いたしませう。どうか私の爲お祈り下さいませ。

○ 橫濱 金子喜美

るといふ事でした。自分は神の爲につくしたい、青年會の爲に働きたいといふ心がむらむら起つて參りました。どうぞ私のやうな者でも御手傳する事が出來ましたら御敎へ下さい。

○ 淡路 相良久

凡て至れり盡せりの修養會で滿足と感謝を持つて歸りました。殊に私の一生に消す事の出來ない土臺を得ました事を感謝して居ります。最後の夜ローソクを持ち靜かな講堂にマーチに合せて入つて往つた時の莊嚴だつた事は何日迄たつても私の心から取り消す事が出來ません。祈りの時にでも何時でも其有樣が目前に現はれ自ら心も靜かになります。あゝ此ローソクのやうに世の光となり凡ての人に愛を持つて共に働かなければならないと深く深く刻み込まれました。キリストは私が愛して下さいます。私も人を愛して互に勞を負ふて此世を終りたいといふ覺悟で御座います。あの一週間に得ました賜は誰も私の心から奪ふ事は出來ません。地位も財產も比べものに

の人、女中もあれば女學生もあります。私

どうかして此人達と一緒に苦しみたいと思

ます。どうか足りません所を御敎へ下さい

來學期學校に參りましてから本當に變つ

生涯を送りたいと思つて居ります。青年會

もつと發展させませう。必ず反對も出來、

難も隨分多い事と存じます。どうか祈つて下さいませ。

○ 相川睦

私の心は感謝に充たされ希望と平和とうに神樣の愛をしつかり心にうけて歸りました。神樣の御用をいたします爲に勉强にも實に凡てのことに心がけて御榮光の爲に盡ます。青年會のために御祈りいたして居ります。主にありて先生方の御健康ならん事をります。必要な時神の召に應ずるやう準備しませう。

○

修養會は私にとつて去年にもまして忘れ

ぬ時となりました。私は今考へますと昨年

感激に充された時として心に殘り、今年は

れに意志の加はつた事を感じます。私は憶にしつかりとした或考へを持ち得ました。そしてその凡ての數々のうちから眞髄を抜き出して實生活に活用する事を考へさせられました。私には毎朝の短い禮拜の時の氣分が一番深い印象として殘されました。靜かな默禱の最中に起るあのコーラスは神の御聲の様にひゞきました。そして罪に汚れた身は聖化され靈化されるやうにさへ思はれてなりませんでした。殊に其默禱の中に考へる事が自分の一番惱んでゐた愛の事でしたから私は餘計感じさせられたやうに思ひます。凡ての人を愛する敵をすら愛する事は本當にむつかしい事でした。どうすればそれが出來るかに就ては前から一番苦しんで居りました。人の愛を受け得る力をとは願ひません。唯人を愛し得る力をといつも願つて居りますが、弱い私の心は時々私にさからひます。今年の修養會によりまして此事の解決を與へられました事は何にも增した感謝でございます。

益々祈り深い、自らをない者にする生活を深く深く味ひたいと存じます。今更改めて會を御紹介下さいました事を御禮致します。そしていろ〳〵御世話樣になりました事を感謝いたします。信仰の事については無頓着な母が修養會の如何なるものであるかを知りまして、今年許さなかつた妹達に來年は是非と申て居ります。之によりましても私が會により少しでも進んだ事を知り得たかと思ひ嬉しく存じます。家庭の内に、學校に於て又友人に對して自分の責任を感じます。弱い私の爲どうぞ御祈り下さいませ。

〇

私は修養會の事を一日に何べんとなく思ひ出します。其時私の胸はいつぱいになりますたへられなくなります。確に私の性質の或一部分はあれ以來一變して終ひました。

〇　宮城女學校青年會　代表者

私共の爲すべき使命の多くある事を知らして戴きました。來學期から何か致そうと決心して居ります。今後の御指導を御願致します

〇

いろ〳〵の方面に御心勞下さいました先生方の御深切を心に銘して歸りました。表面に御立ち下すつた先生、かくれて御祈り下さいました先生、どの一つの力を失ひましても私共の一週間の航海は斯くの如き成功を見る事は出來なかつたと思ひます。ヒリグリムフアザースのやうに私共は今新しい生活の岸邊に立つてゐるやうな氣がいたします。そして九月からの生涯がどうか横濱の一週間を裏切るものとなりませぬやう、恐れおのゝきをもて自分の魂を守りつゞけて居ります。先生どうかどうか私共の前途の爲、祈禱と奉仕の兩輪が地上で遂し得られる最高の所に迄私共の生涯を運び行き得ますやう御力添えと御祈とを御願ひいたします。

山本、中西兩幹事よりの通信

布哇より　初めて日のあたり見る熱帶の樹木、色彩の濃厚な香氣の強い熱帶の花、唯もうホノルル全體が美しい植物園の觀を呈して居ると初めて見る目にはうつりました。女子靑年會のミスチヤノンを初め内外人の心からの御もてなしによつて、異境でうける親切の嬉しさを心行く許り味ひました。

たえず起つて來る難かしい日本人の問題と戰ひつゝ勇ましく働いて居られる靑年會の二人の日本の姉妹及廣島に居られたといふ若い西洋の姉妹の上に特に祝福を祈つて上げて下さい。明後日は目的のアメリカ内地に着します。委細は後便で御報告申上ます。

七・一三

〇愛好者の多い好季節となりました。初夏のすきな私は[illegible]なるといつも一寸迷はされます。實際は秋の方がよいのではなかつたかと。澄んだ空を見上げる時、蟲のシンフォニーに聞き入る時初夏の味を忘れさせられる事があります。そして秋の魅力が私をグン〳〵引ばつて行くやうな氣がするのです。其時私

摘要

△[illegible]下度
直に御[illegible]
△御送金は振替にて[illegible]方便利にて几間違も無之候、但手數料[illegible]
登録を御[illegible]へ下され度候。
△[illegible]

——編輯を終りて——

かつたかと。澄んだ空を見上げる時、蟲のシンフォニーに聞き入る時初夏の味を忘れさせられる事があります。そして秋の魅力が私をグン／＼引ばつて行くやうな氣がするのです。其時私は考へます『初夏でも初秋でも、どつちでもいゝ、自分が一番よく過せる時が一番いゝのだ。たとへそれが寒中でも暑中でも。しつかり歩かう、一歩々々大地を踏みしめて、小くてもよいからはつきりした歩みをしやう』と。斯様な私の氣持はとにかく、事實今は活動の時、讀書の時、思索の時、何かせずには居られぬ時です。此際特に誌友方の健全な御發展を祈ります。個人としても團體としても本當に眞劍になりませう。

○今月の本誌はいろ／＼の手違ひから大變おそくなりました。申譯ありません。それに修養會の講演筆記は校閲を經る必要がありましたので間に合ひませんでした。修養會の感想をお書き下すつた方々に厚く御禮申上ます。貴い御經驗は讀む人の心に觸れる事でございませう。誌友の頁に追々よい投稿が見え初めました。どうか此後も振つて氣焔なり理想なり感想なりを御送り下さい。

○レーガン様が再び幹事として八月中頃御着きになりました。前よりも御元氣で日本語は相變らず御上手との事です。H・A

要

直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて几間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税共

	内地	海外
一部	金十五錢	金拾七錢
一年前金	壹圓五十錢	金壹圓八拾錢

廣告料

一回掲載	
一頁	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年契約は回數により割引有

大正九年八月廿八日印刷納本
大正九年九月一日發行

發行所 牛込區市ヶ谷田町三ノ十二 日本基督教女子青年會（電話番町四五六三番 振替東京二一七二三番）

發行兼編輯人 牛込區市ヶ谷田町三ノ十二 河井道子

印刷人 芝區愛宕山和泉町七 前川吉次郎

印刷所 同 三成舍

DAISEIYA HOTEL

Honcho 6 chome, Yokohama Japan,

Phone. 953,2813. Honkyoku

御歸朝並に御渡航上に就ては萬事丁寧親切に御取扱申上候、尚御歸朝の際は無線電信にて御通知被下候はゞ御出迎可仕候

歐米各國汽船乗客貨物取扱所

廣島縣海外協會指定旅館
熊本縣海外協會指定旅館

大勢屋旅館

横濱市本町六丁目（櫻木驛前）

電話本局 長二九五三 二八一三

弊館は最新式四層建築にして各室電話の設備を有し歐米視察御旅客並に御携帯品、貨物等の取扱には最も高評を博し居り候

胃腸新薬

三共株

◆其實驗說明書の發行十三版を重ね◆

本器は會主前島震太郎の創製にして江湖に提供して以來七箇年

酸素療器



登錄商標

オキシヘーラー

▽邦文 支那文 治病實驗例附說明書贈呈△

▼オキシヘーラーの効力顯著なる事は使用僅か五分間にして三乃至五ｍｍの血壓を亢め一時間を繼續せば實に十乃至三十ｍｍの活力を增進す試に血壓計、脈波計を以て驗せば其調節の狀を明にし各自は脈搏呼吸、體溫の整調に依て自覺せらる

▼靈妙なる磁氣應用の本器は斯して血液中の酸素吸引力を增大し健康の元素を補ふが故に難治の疾病を根治するに空前の偉力を有す論より證據使用者は忽ち脈搏强實となり全身の溫暖、呼吸の深長を感じ次で熟睡、解熱、鎭痛、食慾の亢進、兩便の快通等生理的本能を回復するの神速なるは實に天下の奇蹟なり

特色（使用法簡易効力永遠不滅にして電池の如く消耗するものにあらざれば器械購入以外永遠に何等費用を要せず

■正價金參拾五圓■

送料 內地 金參拾六錢 支・朝・臺・樺金六拾五錢

愛用者實に數萬を算して信用愈々確立決して他の模倣を許さず

東京市牛込區箪笥町三十一番地

◇オキシヘーラー奬勵會◇

電話番町局三〇七・四六八九・振替東京二七、七一二

「診察毎朝及毎夕 但祭日及日曜之他」
院長診察 月、木、金、午前及午後六時
林、峯間兩副長は目下當院に在勤
東京市麹町區三番町三十番地（市ケ谷見附内）
電話番町 六二番 五一六番

東洋内科醫院

院長 醫學博士 高田畊安

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察 土曜日午後 入院診後應需
「診察毎朝 但祭日及日曜及土曜之他」

T. YAMAMOTO

EMBROIDERER AND DRESS MAKER

No. 61, Yamashita-cho, Yokohama, Japan

Tel. Honkyoku No. 3993 (Near the Grand and Oriental Hotel)

Embroideries	**Ready Made**
Silk Linens and Cotton Crapes	Dresses Blouses and Under Wear

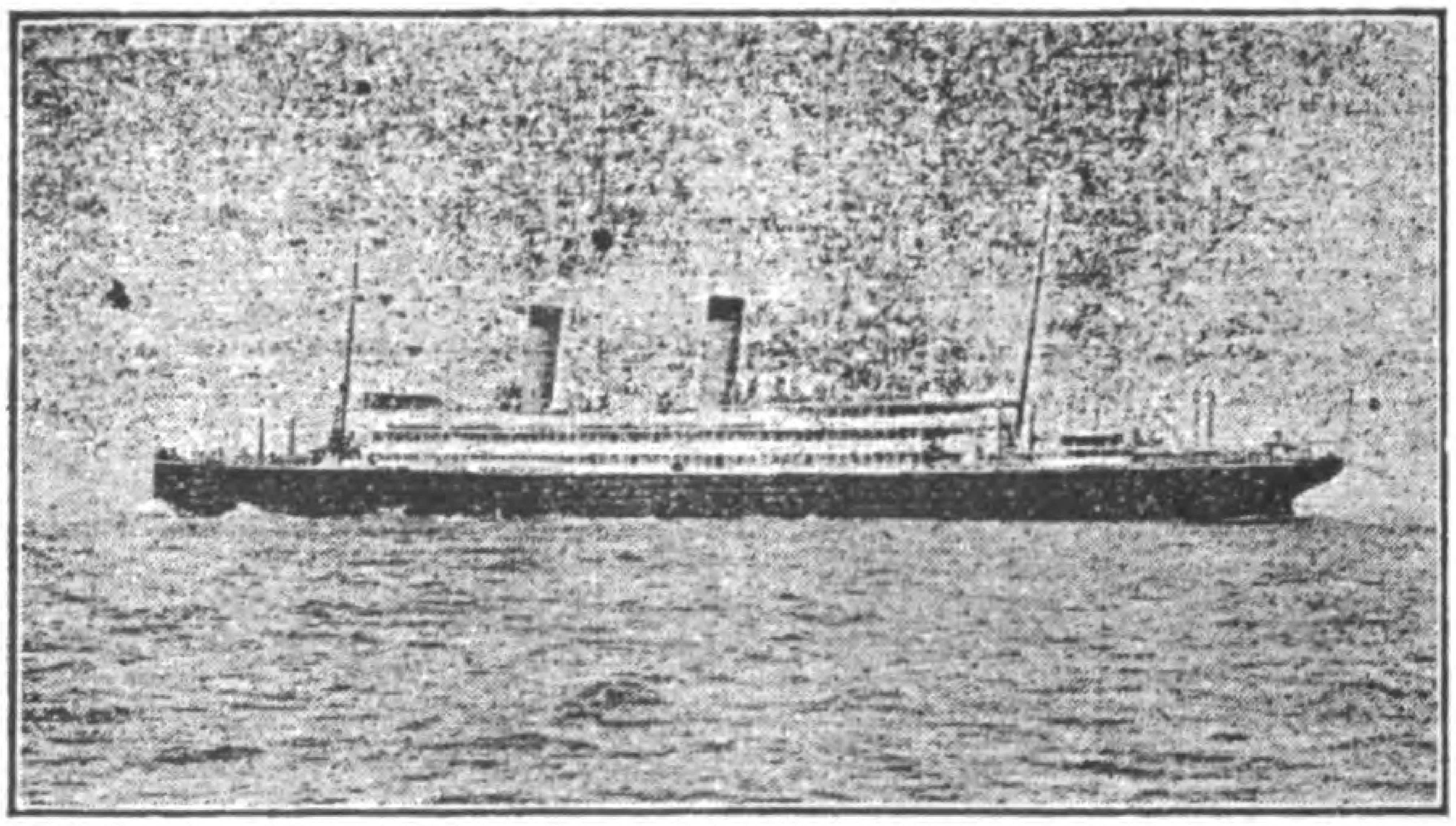
Always on hand at Moderate Prices.

横濱市山下町六十一番地
絹物商 山本商店 電話本局三九九三番

東

本社 東京市麹町區永楽町一丁目一番地
營業所 横濱市山下町五番
（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビル）

東洋汽船株式會社



營業所 横濱市山下町五番（本局 四四〇二、四四〇三番 四四〇四）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビルヂング。マニラ、チヤコビルヂング。桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルヂング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。）

北米航路（桑港、布哇ホノルヽ、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸		同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
靜洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾七卷第九號（毎月一回一日發行）
大正九年八月廿六日印刷納本　大正九年九月一日發行　明治卅五年七月七日第三種郵便物認可